岡山大学 OKAYAMA UNIVERSITY | EPOCH 先端研究基盤刷新事業 | JASIS 2026

2026年9月4日（金）
分析機器・科学機器総合展（JASIS）
コラボレーションセミナー

人的資本による知と技の共創の場が切り拓く、我が国の研究環境・基盤の刷新

～先端研究・経済安全保障の強化促進を担う開かれた研究基盤拠点～

国立大学法人岡山大学

副理事（研究・産学共創総括担当）・副学長（学事担当）・
技術副総監・上級URA・EPOCHプロジェクト統括

佐藤 法仁

J-PEAKS

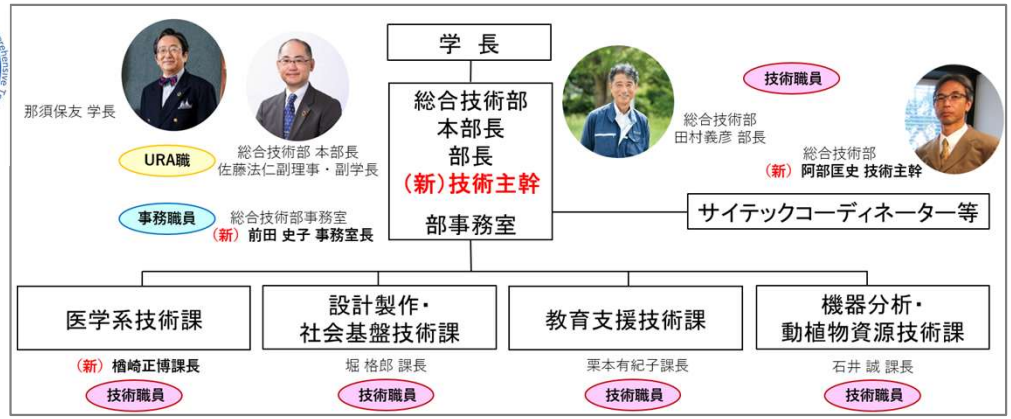
1．岡山大学の取組実績例（技術職員組織の強化）

令和4年度に教育研究系技術職員を組織化し「総合技術部」創部
学長直下に研究担当副理事を責任者、技術職員が部課長職の体制



設置当初
技術職員80名+事務職員1名

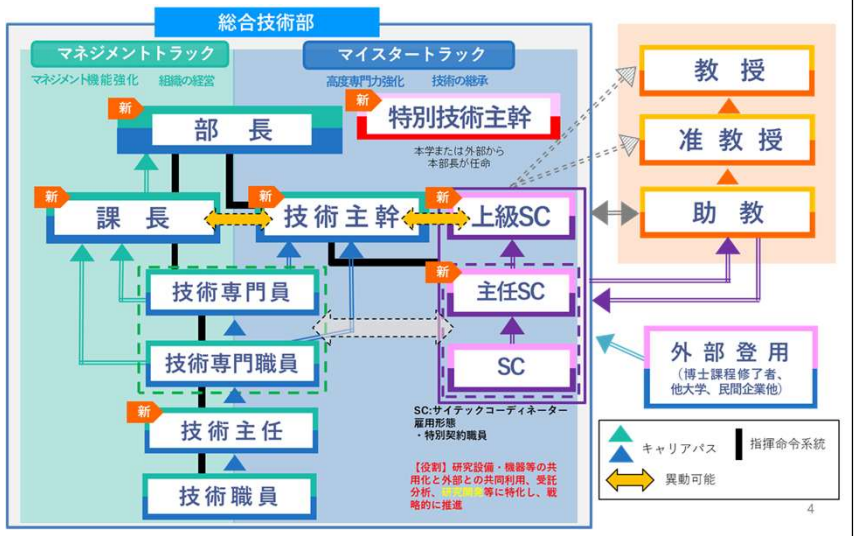
令和7年度から新たに技術主幹を任命し、技術全般の統括を
担う職務を行う。また事務室長も設置【**機能強化**】



R8年現在
技術人材87名（技術職員、SC）＋事務室6名の93名

※SC＝共用化や学外との共同利用、受託分析、研究開発等に特化した岡大独自技術系職種

キャリアパス（ダブルトラック制）



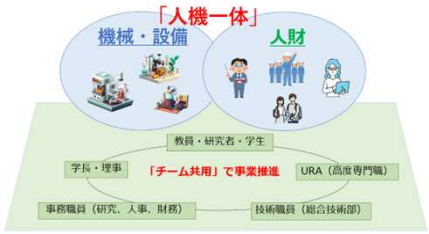
研究基盤の考え方と運営体制

研究基盤＝研究設備と技術職員(人財)を明記

- 岡山大学研究ポリシー
- 研究基盤整備・有効活用推進ポリシー

チーム共用タスクフォース

役員や総合技術部、全学事務職員、URA 等で構成。研究設備・機器の戦略的整備計画の策定、共用方針の統一、KPI に基づく進捗管理、外部共用の推進等を人機一体のマネジメントを強化



戦略的研究設備へ技術職員を配置

教育研究系技術職員の**人事権は総合技術部**へ
（教育研究評議会において決定）



クライオ電子顕微鏡



ヘリウム液化システム



物質合成のロボットによる自動化

総合技術部設立前は困難であった
組織横断の**戦略的な人事配置が可能**

1．岡山大学の取組実績例（人事戦略、機器共用、他機関連携）

技術職員の見える化強化
～技術者総覧・スキルマップ～

【戦略】技術から研究開発イノベーションをマネジメントできる技術職員を育成

持ち得るノウハウや技術研究の業績などを**見える化**

研究者総覧 → 研究者・技術者総覧

岡山大学 総合技術部 Comprehensive Technical Solutions Okayama University

総合技術部HPにスキルマップ公開

研究者（教員）が担当していた役職等を技術職員へ
～技術職員の活躍促進～

部門長・分野長や委員会といったこれまで**研究者（教員）が担ってきた役職・役割り等を技術職員や事務職員が担う**、**「脱・教員中心主義」**を実行。教員の11,840時間/年の時間確保、それにあたる人件費59,000千円/年の削減に成功！

「脱・教員中心主義」

全系統技術職員の高度化
「技術統括監理本部」

①各系統（教育研究系、施設系、医療系）の技術職員を一元的に取りまとめた組織**【組織力の強化】**
②技術総監（学長）が直接マネジメントする組織**【トップマネジメント】**
③技術職員が技術副総監として**副理事・副学長と同位に**就く。**大学に我が国初の技監制度**を導入。退職時に**名誉技監の称号付与制度**を実施**【高度化】**

大学初の試み

統括部局強化と財務改革推進へ
研究設備のリース・レンタルの「SXプラットフォーム」

従来の**「買う」から「借りる」へ**刷新するSXプラットフォームを構築。**4経費（設置費、保守費、修理費、撤去費）不要。**

所有から共有へ SX Platform

設置費 / 保守費 / 修理費 / 撤去費 → **4経費不要**

SX活用設備を共用開始済

コアファシリティ・ポータル（CFPOU）の構築・運営

◆岡山大学独自の研究設備機器共用システム（405台登録）運営
◆共用機器情報の一元化
◆**共用機器の機器検索・予約・利用料金精算をワンストップ化。**
◆機器利用実績データの活用
◆**論文データ「Pure/Elsevier」と紐づけ**
◆**AIチャットボット搭載**



研究基盤設備活性化支援事業「ReGAIN」の企画・立案

◆学内の限られた財政的・人的資源を最大限有効活用
◆コアファシリティポータル利用を通じ、機器共用事業を活性化
◆共用設備の機能強化、自動化、高効率化、修理等の費用を支援（利用状況・論文等の貢献等重視）

機器共用
DX化推進
優先設備選定



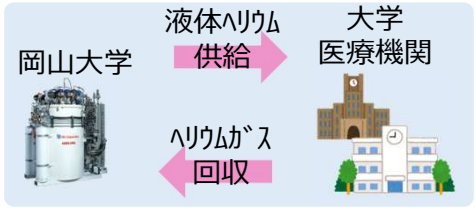
「大学院修学支援制度」による職員の高度化・博士人材の育成

職員の「高度化」の手段として、**「修士」と「博士」の学位取得を支援**する制度を2024年度から始動（大学が学費全額負担、職務専念義務免除、上司の許可不要等）。これまでに博士後期課程8名、博士前期課程5名を認定し、支援。
初の博士号取得者（技術職員）は**「特定助教」**として活動



1大学にとどまらない技術職員の高度化・機器共用強化

ヘリウムリサイクルによる全国裨益



早稲田大学や山口大学、国研といった**国立・私立等の枠を超えた**技術職員の連携強化



文部科学省「技術職員の人事制度等に関するガイドライン」や「研究開発マネジメント人材の人事制度等に関するガイドライン」等の国のガイドラインに岡山大学の取り組みが多数好事例として掲載！

科学技術人材の育成（大学院生・学部生を技術補佐員として雇用）

◆学生マイスター：共用設備の操作やサポートに従事（共用設備に配置）
◆テクニカルリサーチャー：総合技術部の技術補佐（組織に配置）

2．岡山大学のEPOCHプロジェクト（概要）

人的資本による知と技の共創の場が切り拓く、我が国の研究環境・基盤の刷新

～先端研究・経済安全保障の強化促進を担う開かれた研究基盤拠点～

岡山大学 OKAYAMA UNIVERSITY

①微量元素イメージング ×年代分析共用拠点（考古学・地球科学の強み）

我が国の文化・地球史の解明と試料の国内完結を実現

【全国散在の機器・ノウハウ等を集約】



世界トップレベルのイメージング・年代分析プラットフォーム

考古学・地球科学・環境・材料・ヘルスケア等に貢献。人文系 x 研究機器・データ活用の新境地開拓にも挑戦。

試料・データの国内保全（経済安全保障の強化促進）

「知のベースキャンプ」へ



- ✓ 「資源配分型の大学経営」から「資産活用型の大学経営」へ
- ✓ 高品質な研究基盤の創出と共用、AI・ﾃﾞｰﾀ駆動による新たな知の創出
- ✓ 人材育成・技術伝承の拠点、我が国全体の研究力向上に貢献
- ✓ 知から新しい価値を創出できるナレッジワーカーの育成・定着強化
- ✓ 共用拠点として「競争」から「共創」、「共にできることは共に」へ

②セラノスティクス共用拠点（ヘルスケアの強み）

診断と治療の融合による次世代医療の創出を実現

【国内でも稀有な研究基盤拠点を形成】



RI・イメージング・創薬・動物実験・GMP対応を一体化した研究基盤

創薬開発の加速と新規医療の社会実装にも貢献

岡山大学病院等との連携型共用拠点整備

海外研究者等招聘で国際頭脳循環も推進

③研究設備のあり方を刷新&財務改革等「SXプラットフォーム」

大学（教職員）

レンタル・リース プラットフォーム

SX Platform（所有から共有へ）

参画企業

ユーザビリティ向上

標準化・効率化（カイゼン）

ﾚﾝﾀﾙ・ﾘｰｽ文化醸成・普及

④経済安全保障を担うヘリウムリサイクルシステム

HeReNet、HeliGet、HeliSET

供給拡大 料金値下げ

使用済 MRI等からの回収



精製・再生（液化機体制の強化）

ヘリウム関連の人材育成とノウハウ共有

ヘリウム安定供給・人材育成・データ管理

⑤ユーザビリティ向上“カイゼン”

SXプラットフォームを活用

カイゼン・標準化・効率化・共有

⑥技術人財の養成・専門化・高度化・流動化・国際化

養成　専門化　高度化　流動化　国際化

TCカレッジ等やこれまでの取組を最大活用
技術職員は支援者ではなく、研究者等のパートナー、かつ研究開発マネジメント人材

⑦統括部局の強化と“人機一体”の機器環境構築

技術職員高度化

全学支援体制統合強化

法人直轄の新機構へ強化
技術職員と機器の一体運用等

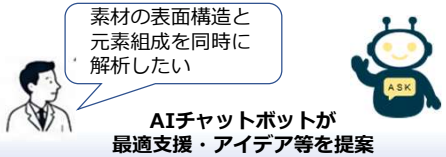
AI・DX・データ活用による研究基盤の価値最大化

我が国全体の研究力向上・知の構造変化・新たな価値創出へ

❶統括部局の更なる強化（既存部局を統合し、法人直轄の新機構へ）

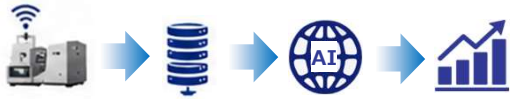
- ✓ 教職協働体制の強化
- ✓ 技監制度の発展強化
- ✓ 全人員配置の最適強化 など

❷目的駆動型AIエージェント（CFPOU強化）



AIチャットボットが最適支援・アイデア等を提案

❸DX（IoT・システム連携）×IR×AI



共用拠点施設・データ等を、誰もが挑戦できる場（研究現場の高度化）とデータ駆動型の大学経営（戦略）へ直結し実行



研究基盤の刷新を起点に、我が国の科学の再興とイノベーション創出を牽引。岡山大学は、自身のためではなく、中四国地域から我が国全体を巻き込み、将来にわたり永続的に研究基盤を支え、発展させる矜持・責任のもと決断・実行する

3．岡山大学のEPOCHプロジェクト（魅力ある2つの共用拠点）

○ **「知のベースキャンプ」として岡山大学の強み・特色を活かし、人が集まり・つながる魅力的な場を形成**
○ 本学の強み・特色分野を強化・発展させ、新たな研究パラダイムを生み出す2大共用拠点により、我が国全体へ裨益

①微量元素イメージング × 年代分析共用拠点
（強み：考古学・地球科学）

我が国の文化・地球史の解明と試料の国内完結を実現

- 世界トップレベルのイメージング・年代分析プラットフォーム
- 考古学・地球科学・環境・材料・ヘルスケア等に貢献
- 試料・データの国内保全。海外流出を防ぐ

全国散在の機器、ノウハウ等を集約

主な設備・測定手法



次世代超高分解能
質量分析計



高速多点レーザー
アブレーション装置



四重極型プラズマ
質量分析計

最先端技術やノウハウ・人材、全国に散在する設備を岡山大学に集約・承継・発展へ。利便性と研究開発力などを強化へ

②セラノスティクス共用拠点
（強み：ヘルスケア）

診断と治療の融合による次世代医療の創出を実現

- RI・イメージング・創薬・動物実験・GMP対応を一体化
- 創薬開発の加速と新規医療の社会実装にも貢献
- 海外研究者招聘による国際頭脳循環も推進

研究者・企業がアクセスできる橋渡し研究基盤

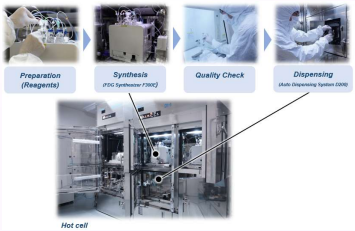
主な設備・測定手法



NHP対応
PET-CT装置



小動物用
PET装置



GMP対応
ホットセル

今後の発展が期待される新興領域において、国内でも稀有な研究基盤拠点を形成（世界でもまだまだ未整な備領域への先行投資）

リソースを集中投下する岡山大学「最重点研究分野」の研究基盤と研究所群をさらに尖らせつつ、我が国全体への裨益のために、文明動態学研究所、未来医療創発研究所、異分野基礎科学研究所、惑星物質研究所の共用体制を強化・発展する

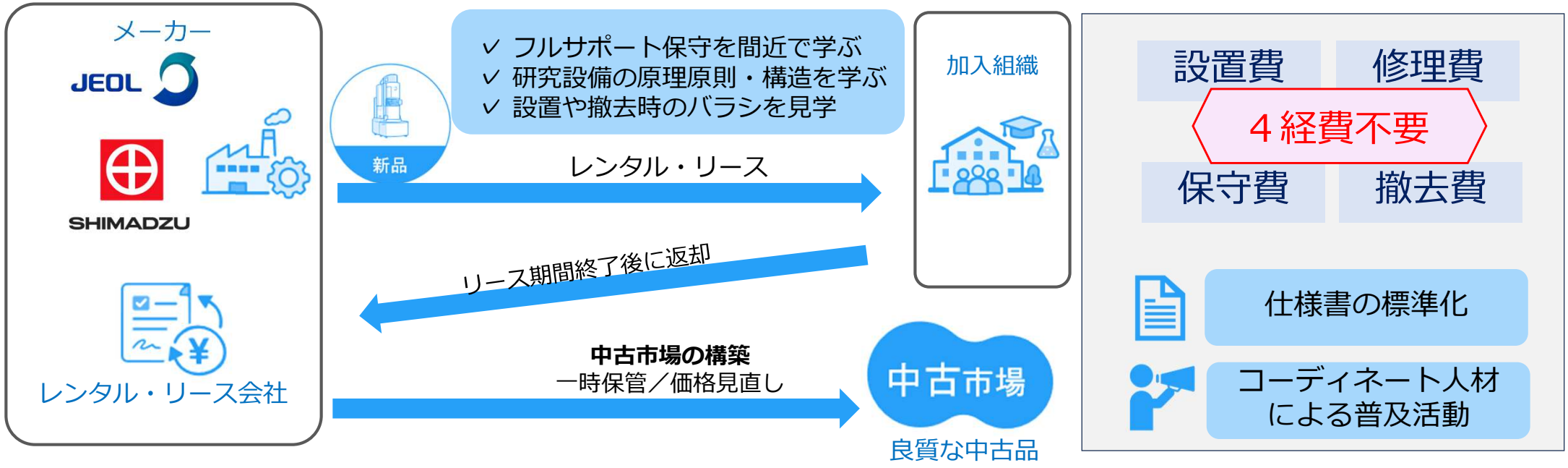
岡山大学の強みを生かしつつ、全国が使える高付加価値共用基盤を確立

岡山大学 OKAYAMA UNIVERSITY

3．岡山大学のEPOCHプロジェクト（SXプラットフォームの強化）

○ **従来の「買う」から「借りる」への刷新**として、**研究基盤の"運用文化"を変え、我が国にリース文化の定着を行う**
○ **４経費（設置費、保守費、修理費、撤去費）が不要**な仕組みにより、研究基盤の長年の課題を解決するだけでなく、リース終了後の良好な状態の設備をセカンドマーケット（中古市場）に流通させ他大学等に恩恵のある仕組みを拡大
○ **レンタル・リース、ユーザビリティ向上、人材育成流動等のトリプルブーストとして、企業、技術職員、研究者がつながる共創の場としても活用**
○ レンタル・リースは、全学の機器管理と財務マネジメントがなければ実施できない＝**統括部局強化と財務改革促進へ！**

研究機器のレンタル・リース文化の醸成 & 大学の統括部局強化と財務改革促進



所有から共有へ SX Platform
場の形成にも仕組みを活用

- **メーカーのフルサポート保守を技術職員が間近で学ぶ人材育成機器の原理原則を学ぶ機会の提供**
- **企業とともに機器のユーザビリティ向上**
- **企業退職者等を加盟機関へつなぐ人材流動・国際化**

会員募集

3．岡山大学のEPOCHプロジェクト（ヘリウムリサイクルシステム強化）

○ 研究に必需品である寒剤・**液体ヘリウムが世界的に高騰**している中、**100%輸入に頼っている我が国**において、国際情勢に左右される**経済安全保障を含めた大きな影響**がある。**ヘリウムを使った研究の裾野を広げる重要な取組**
○ 液体ヘリウムを使った研究をリーズナブルに実施でき、かつ**ヘリウム関連の人材育成プログラム、コンソーシアムへ**
○ 使用済設備に残存し廃棄されていた液体ヘリウム（年間最大55万ﾘｯﾄﾙ）の回収により一大ヘリウム都市ガス田を形成

ヘリウムコンソーシアム(HeliCon-J)設立(6/11規約策定)

ヘリウムリサイクル関係のグループ形成、取組や課題の情報発信・共有、取組みの連携強化



HeReNet：
中四国・播磨ヘリウムリサイクルネットワーク
米子高専・鳥取大・惑星研（岡大）
岡山理科大・徳島大・香川大
SPring-8・甲南大

HeliGet：
使用済設備からのヘリウム回収
理化学研究所と企業による回収実績・ノウハウをベースに発展・拡大させロールモデル化へ

HeliSET：
ヘリウム関連人財育成プログラム
・次世代を担うヘリウムユーザーの育成
・ヘリウム供給価格の安定化

ヘリウムリサイクルワークショップ開催

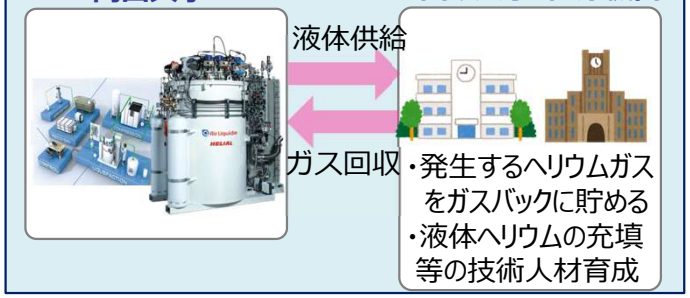


6/22ヘリウムコンソーシアム設立に向けたヘリウムワークショップ開催
全国から約200名参加



ヘリウムリサイクル事業(HeReNet)を拡大

各機関のヘリウムガスを回収し、本学のヘリウム液化装置でリサイクルし、精製した液体ヘリウムを各機関へ供給することで、各機関は安価に液体ヘリウムを使用可能となる。
すでに実証フェーズに入っており、地域内外の液体ヘリウムの供給先を増やす。



人財育成（HeliSET）を主導

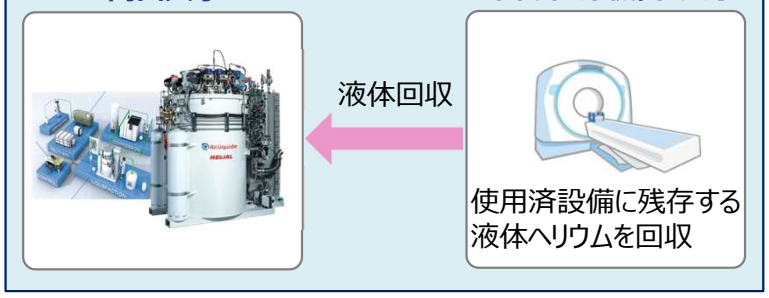
全国の技術職員等を対象に人財育成プログラム、TCカレッジのヘリウム関係人材育成単位新設を主催。



持続可能な仕組みにするためには人的資本への投資が必要
TCカレッジを活用した育成を展開

使用済設備からの回収(HeliGet)でヘリウムの安定確保

使用済設備（MRI等）に残存する液体ヘリウムはこれまで大気放出されていた。
残存ヘリウムの回収により、安価でヘリウムを安定確保することができ、供給量を増やす。



高騰し続け入手困難なヘリウムについて、**リサイクル・回収・共用・人材育成と一体化**し、研究基盤の強化のみならず、我が国の**経済安全保障にも資する全国波及型プロジェクト**として強力に推進

会員募集

3．岡山大学のEPOCHプロジェクト（研究機器のユーザビリティ“カイゼン”）

○ **SXプラットフォームの枠組みを活用し、大学と企業が秘密保持環境**のもと、**既存機器ユーザビリティのカイゼン（改善）**
○ 試料作成・試料セット工程の属人性やヒューマンエラーを低減し、**誰が実施しても再現可能な前処理技術を確立**する
○ **技術職員チームが企業と連携**し、技術開発の「5層」を統合した**カイゼンを自由に議論し、実現へつなげていく場をつくる**

次世代機器開発へ還元

熟練者の暗黙知や経験を抽出・記録

SXプラットフォーム
守秘義務に基づく産学連携型カイゼン基盤

○加盟企業・機関間で守秘義務による顔の見えるｶｲｾﾞﾝ基盤

○大学、企業、研究機関が連携し、企業秘密（機器内部構造、ソフトウェア仕様、設定情報、保守情報、開発情報、利用者ニーズ）等を共有することが可能

加盟企業



本学

SX加盟機関へ横展開

ノウハウの可視化、文書化で**形式知化**

改善内容の見直し、標準化、
仕組化・形式知化、次の課題設定

現場課題の特定
改善方針、目標設定、
優先順位付け

第５層：再現性の高い成果創出
各層の改善成果を統合し、研究成果創出を最大化。基盤全体の価値向上に貢献。

第４層：試料作製・試料セット技術
研究機器利用において最も属人化しやすい抽出、精製、濃縮、分注、試料セット等の工程を対象とし、自動化・標準化を通じて、誰が実施しても再現可能な環境整備を推進。

第３層：操作系・UIの最適化
非熟練者でも直感的に利用可能な操作環境を目指す。操作ミスの未然防止と教育負担の軽減を実現。

第２層：プロトコルと機構の標準化
前処理手順や測定条件などを標準化し、ヒューマンエラーの発生要因を低減させ再現性の高い測定環境を構築。

第１層：ソフトウェアとデータ解析
測定データ取得から解析までの流れの改善。データ活用の効率化および再現性向上を図る。

教育・共有化・成果の体系化

ツール・システムで手順や設定の**標準化**

学内改善ルート
既存資源を活用した迅速なカイゼン

○学内人的・技術的資源を活用し、手順改善、条件最適化、操作支援、治具作製、ソフトウェア設定改善、利用マニュアル整備等によるカイゼン



○技術職員、研究者、蓄積された暗黙知を活用し、低コストかつ短期間でのカイゼンを実現

○企業との連携が必要となる前に、まず学内で解決可能な課題を抽出・整理することで、効率的なカイゼン活動を推進

○改善案の検討、設計、プロトタイプ検証、企業での実装検討
○効果測定、データ分析、再現性、効率性の評価、課題の提出

共有・再利用し教育やトレーニングに活用

他分野・他機器へ展開

3．岡山大学のEPOCHプロジェクト（技術人材育成の強化）

○ 技術人材に関して本事業では**人材育成の新しいプラットフォームは創設せず、TCカレッジやこれまでの取組を最大限活用する**
○ **養成、専門化、高度化、流動化、国際化の５つを実施**

軌道に乗っているこれまでの取組

■TCカレッジ受講・運営による人材育成
・本学の受講生15名（令和8年度時点）
※TC認定者2名含む
・サテライト校（医工系コース）を運営
（技術人材が運営主担当）



■本学独自の大学院修学支援制度
・本学技術職員9名が認定（令和8年度時点）



■民間企業・他機関との相互研修・派遣
・民間企業・大阪大学・広島大学・津山高専・分子科学研究所で実施（令和8年度時点）



民間企業との研修
（株式会社新日本科学）



他機関との研修
（分子科学研究所）

■プロジェクトマネジメント能力育成
・研究開発マネジメント人材認定
・プロジェクトマネジメント基礎研修実施





❶養成

・分子科学研究所と新しい学生マイスター制度
・技術職員スキル特化型技術交流

新しい学生マイスター制度



学部4年生　大学院博士前期課程　大学院博士後期課程

分子科学研究所
・技術ﾈｯﾄﾜｰｸ活用
・大学院生受入機能

❷専門化

・TCカレッジ医工系コース強化
・大学院修学支援制度促進



強みの病院と連携して
専門化カリキュラム強化

博士号取得者
3年以内2名

❸高度化

・高度な技術と知から技術イノベーションをプロデュースできる技術プロジェクトマネージャー育成
（技術PM）

高度な技術と研究機器をもとに研究者や企業等に技術提案を行える高度専門人材



研究開発マネジメント人材認定制度
（技術系）

❹流動化

・SXﾌﾟﾗｯﾄﾌｫｰﾑを活用したエンジニア流動



JEOL　SHIMADZU

技術職員不足の解消

企業からの頭脳循環

SXプラットフォーム活用　所有から共有へ SX Platform

❺国際化

・PMI日本支部、PMIアジアパシフィック、連携企業などと連携
・海外エリアでの技術営業や研究開発現場研修



連携研修
（締結済）



国内で得られない
知見・ノウハウを取得

4．岡山大学のEPOCHプロジェクトの実施体制

岡山大学におけるEPOCH事業の実施体制は、研究や技術、事務、教員、URA、病院等の組織・人材が一体となった全学体制である**「研究　機器の共用の体制・整備等の強化促進に関するタスクフォース」（略称：チーム共用）**で実施。本チーム共用は 文部科学省ガイドラインにも好事例、あるべき姿の一例として記載されるなど、本学のこれまでの取組と本事業での新たな挑戦を決断・実行するのに最適な体制としています。

また、**優れた研究業績を有する若手の研究准教授や研究助教の登用や東京大学、ユリウス・マクシミリアン大学などから実施項目の第一人者を登用するなどの育成・頭脳循環体制を構築**しています。

参画機関（株式会社島津製作所、日本電子株式会社など）は、本学のビジョンへの共感と我が国の研究共用体制の刷新を自分事として捉え、責任ある行動を取ることを決断している機関の参画となっています。



岡山大学研究機器の共用の体制・整備等の強化促進に関するタスクフォース（チーム共用）



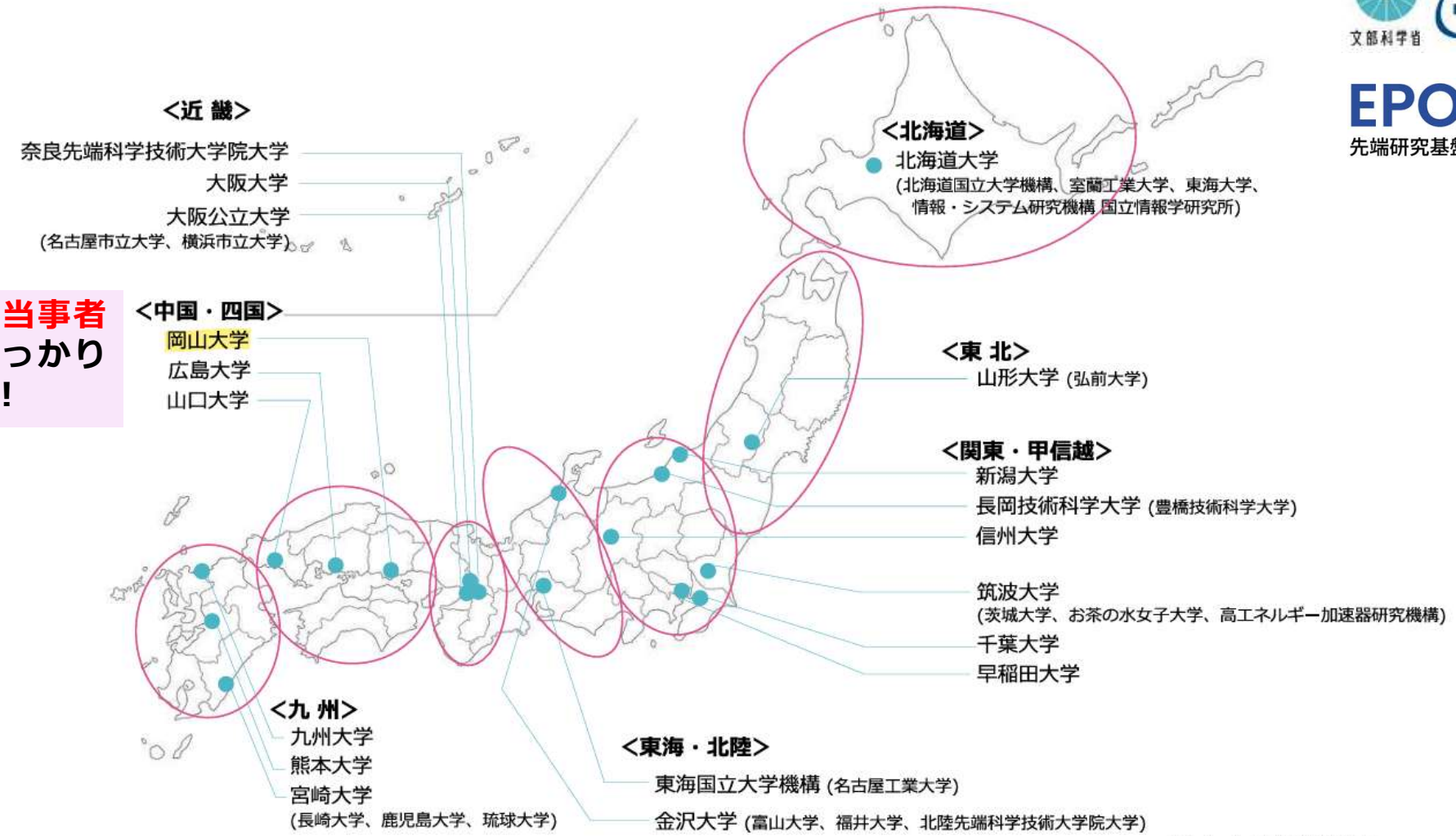
文部科学省「技術職員の人事制度等に関するガイドライン」
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu10/toushin/mext_00006.html

5．おわりに：我が国の研究基盤、共用拠点の刷新のために

先端研究基盤刷新事業(EPOCH) 採択大学一覧

文部科学省 JST

EPOCH
先端研究基盤刷新事業



四国地域も当事者として、しっかり協働します！

https://www.mext.go.jp/content/20260729-mxt_kibanken01-000051247_2.pdf

※（ ）内は連携大学

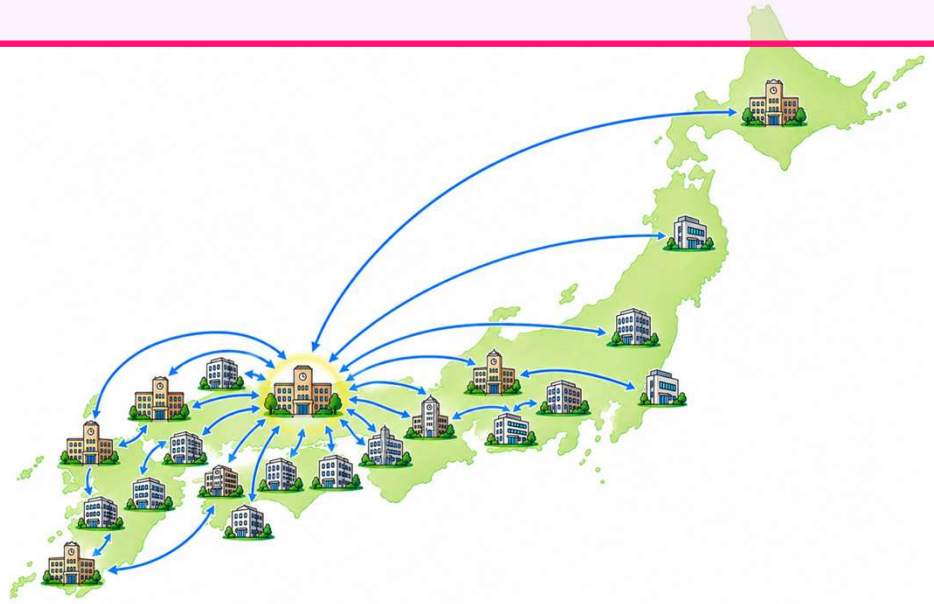
先端研究基盤刷新事業（EPOCH）は、「研究拠点形成事業」ではなく、
我が国の研究環境など全体に裨益する「共用拠点形成事業」である

5．おわりに：我が国の研究基盤、共用拠点の刷新のために

岡山大学の使命：新しい価値を生み出し続ける文化・仕組みを作り上げる

研究基盤の刷新に向けたビジョンともとに、**「1大学のひとり勝ち」ではなく、我が国全体への研究力・イノベーション創出強化等に裨益・波及**することを念頭に、全国の共用体制の強化・促進、**知の構造変化**等につながる責任ある取組を実施する。
EPOCHはこれらを大胆に拡大・加速する手段です。岡山大学は必ず刷新をもたらします！

EPOCH
先端研究基盤刷新事業



岡山大学
OKAYAMA UNIVERSITY

先端研究基盤刷新事業（EPOCH）は、産学官すべての叡智を集結する必要があります。各組織が持つ限定合理性の壁を越えて、「共にできることは共に」、「競争から共創へ」。**皆さまのEPOCHへの参加が、確実に我が国の研究基盤を刷新させ、世界を変えます**。ぜひ、EPOCHへのご参加をお願い申し上げます。



国立大学法人岡山大学
第15代学長（第5代法人の長）
那須　保友

地域中核・特色ある研究大学 岡山大学が拓く今と未来

OKAYAMA UNIVERSITY × SDGs

私たちは大学が地域と地球の未来を共創し、世界を変革させ、
持続可能な社会を実現させる“力”があることを信じています

【本件問い合わせ先】
岡山大学 研究･イノベーション共創管理統括部 先端研究基盤刷新事業担当
〒700-8530 岡山県岡山市北区津島中1-1-1 岡山大学津島キャンパス 本部棟
E-mail：corefacility◎adm.okayama-u.ac.jp
◎を@に置き換えてご連絡ください

https://j-peaks.orsd.okayama-u.ac.jp/

岡山大学 OKAYAMA UNIVERSITY

岡山大学 OKAYAMA UNIVERSITY | EPOCH 先端研究基盤刷新事業 | JASIS 2026

参考資料

J-PEAKS

岡山大学のEPOCHプロジェクト：プロジェクト統括の紹介

参考1

人的資本による知と技の共創の場が切り拓く、我が国の研究環境・基盤の刷新

～先端研究・経済安全保障の強化促進を担う開かれた研究基盤拠点～

EPOCH 先端研究基盤刷新事業

岡山大学 OKAYAMA UNIVERSITY

【岡山大学EPOCHプロジェクト統括】

佐藤法仁　副理事（研究・産学共創総括担当）・副学長（学事担当）・技術副総監・上級URA　　博士（歯学）

URA：上級URAとしてURAの取りまとめ役を担う。
副理事：本学は研究担当理事を配置していないため、研究・産学共創総括担当として研究部門の総括役を担う。
副学長：学事担当として、本学の制度・組織改正等の総務・企画全般を担う。
技術副総監：全系統技術職員（教育研究系、施設系、医療系）の管理部局である技術副総監を担う。
総合技術部本部長：教育研究系技術職員の組織である総合技術部の責任者を担う。
学術研究院 先鋭研究領域長：本学5研究所（異分野基礎科学研究所、資源植物科学研究所、惑星物質研究所、文明動態学研究所、未来医療創発研究所）の組織長として管理運営を担う。
次世代研究院 院長：研究力・イノベーション創出強化の育成ステージ（若手研究者育成や研究機器・研究基盤を核として拠点形成等を含む）である次世代研究院の院長を担う。
研究インテグリティ・マネジメント統括責任者：安全保障輸出管理や経済安全保障、研究セキュリティ・データ等を統括する責任者を担う。



J-PEAKS

「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」の責任者兼日本学術振興会（JSPS）リエゾンでもあるため、J-PEAKSとも密な連動をもって学内外への取り組み波及が可能な立場であり、EPOCH事業のプロジェクト統括として最適と判断し、就任。

国立大学法人岡山大学研究大学宣言

参考2

国立大学法人岡山大学は、
　卓越した研究の強化推進
　高度な教育・人材育成
　先進的な医療・ヘルスケア
　社会変革の実現
などを成すために、教学、人材、組織・制度等の
すべての活動の根幹を「研究力・イノベーション創出」に置き、
世界と伍し、かつ地域の中核となる研究大学として社会とともに在り続けます。



岡山大学
OKAYAMA UNIVERSITY

研究大学宣言は、
「岡山大学長期ビジョン2050」の実現に向け、
岡山大学の強い決意を表すもの

https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14879.html

岡山大学のMVVSを踏まえた本学のEPOCHの目指す方向性

参考3

MISSION

高度な知の創成・創発・継承を通じた、
人類社会の持続可能な未来の実現

VISION

岡山大学長期ビジョン2050
－地域と地球の未来を共創し、世界の革新に寄与する研究大学－

VALUE

未来志向	- 先を見据える -
挑戦	- まず一歩踏み出す -
インクルージョン	- 多様性を尊重する -

STRATEGY

未来共創戦略2025-2027

教育・人財戦略	・主体的に変容し続ける先駆者の育成 ・世界トップ研究者集団とナレッジワーカーの育成
研究・医療戦略	・強みとなる研究群のシステムによる強化・育成を通じた共創 によるイノベーションの創出 ・日本屈指の「診療・教育・研究拠点」となる大学病院の構築
環境・基盤戦略	・教育基盤の構築と多文化共修環境の充実 ・共用・連携等による研究基盤の充実を通じたイノベーション創出集積拠点の形成 ・安定的かつ持続可能な財務基盤と強靭な経営体制の確立

岡山大学は「高度な知の創成・創発・継承を通じた、人類社会の持続可能な未来の実現」を果たすべき使命（ミッション）として掲げました。

このミッションを達成するための2050年における本学の理想像（ビジョン）として、岡山大学長期ビジョン2050「地域と地球の未来を共創し、世界の革新に寄与する研究大学」を位置付けています。

ビジョンの実現のためには、構成員一人ひとりが日々の行動において大切にする共通の指針（バリュー）が欠かせません。本学では、「未来志向」・「挑戦」・「インクルージョン」の３つのバリューを掲げ、これらの実践を通じてビジョンの実現可能性を高めていきます。

さらに、第4期中期目標期間の残期間におけるビジョン実現のための具体的な手段（ストラテジー）として、「未来共創戦略2025-2027」を策定しました。本戦略は「教育・人財」「研究・医療」「環境・基盤」の3つの戦略区分を軸とし、大学の中核機能を横断的に強化・推進する枠組みとなっています。多様な構成員の主体的な参画を基盤として、ビジョンの実現に向けて力強く前進していきます。

ミッション、ビジョン、バリュー、ストラテジー（MVVS）により、本学の目指す方向性を示し、全学的な共通理解を図るとともに、一体的な取り組みを推進していきます。

https://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/ou-mvvs.html



「資源配分型の大学経営」から「資産活用型の大学経営」へ

未来共創戦略 2025 - 2027

教育・人財戦略

主体的に変容し続ける先駆者の育成

- ●学修者が自身の成長を実感できる学士課程教育再構築と展開
- ●研究大学として世界に伍するための大学院学位プログラムの質向上
- ●多彩な学生の受入れを通じたキャンパスの活性化

世界トップ研究者集団とナレッジワーカーの育成

- ●戦略的人事改革による教職員の質の向上と研究力の持続的発展
- ●研究力向上を目指した国内外トップレベル研究者の招聘及び優れた若手研究者の戦略的育成・配置
- ●URA機能強化・博士人材の積極的登用を通じた研究開発マネジメント改革
- ●職員の高度化、教員の機能分化等による人的リソースの最適化

研究・医療戦略

強みとなる研究群のシステムによる強化・育成を通じた共創によるイノベーションの創出

- ●トップレベル研究者の組織化とリソースの集中投下による先鋭研究拠点の形成
- ●高等先鋭研究院間の連携強化による新たなサイエンス創出、次世代研究院の育成による研究の裾野拡大
- ●DX技術を核としたデジタル田園健康特区事業における規制緩和の実現及び医療技術・暮らしの変革
- ●共生型連合体、自治体及び産業界等との連携による社会改革の加速
- ●脱炭素効果の可視化等でカーボンニュートラルを啓発し地域企業との共創促進

日本屈指の「診療・教育・研究拠点」となる大学病院の構築

- ●地域中核医療機関との連携による持続可能な地域医療提供体制の構築
- ●個別最適な教育・研修プログラムによる地域・世界で中核的に活躍する次世代医療人の育成
- ●高度医療の提供及び高度次世代医療等につながる研究推進

環境・基盤戦略

教育基盤の構築と多文化共修環境の充実

- ●教育の質向上を図る基盤となる教職員能力開発プラットフォームの構築
- ●教育DXの推進によるLMS・e-ポートフォリオを活用した学習環境の高度化と学習効果の可視化
- ●多様な学生ニーズに応える包括的な支援体制の推進
- ●キャンパスの更なる国際化による世界水準の教育研究拠点の構築とソーシャルインパクトの創出
- ●国際機関・国内外連携大学・地域社会等との戦略的パートナーシップの構築
- ●ESD for 2030を先導する多文化共修環境の創成

共用・連携等による研究基盤の充実を通じたイノベーション創出集積拠点の形成

- ●先端分析計測設備・基盤設備の充実と学内外への共用（コアファシリティ）による活用の最大化
- ●研究設備の高度化・高効率化の推進
- ●研究基盤ネットワークの構築と強化
- ●共創イノベーションラボ（KIBINOVE）等を活用した産学共創の推進
- ●研究者の管理業務の負担軽減による研究時間の確保
- ●研究データ基盤の強化によるオープンサイエンスの推進

安定的かつ持続可能な財務基盤と強靭な経営体制の確立

- ●民間外部資金の拡大や保有資産の戦略的活用等による財源の多様化とマネジメント体制強化
- ●IRによるエビデンスに基づく全学的な資源再配分と戦略的経営判断の確立
- ●心理的安全性を確保した自律型組織によるアジャイルな働き方の推進
- ●ERM・内部統制による強靭なガバナンス体制の構築
- ●生成AIや内製アプリを活用した働き方改革の更なる加速

地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）

参考4

国立大学法人岡山大学

参画機関：筑波大学、東京大学、東京工業大学、山梨大学、大阪大学、山口大学、理化学研究所、自然科学研究機構、津山工業高等専門学校

取組内容の概要

地域と地球の未来を共創し、世界の革新の中核となる研究大学～持続可能な社会を実現させる10年構想～

不易流行の大学法人経営　～社会変革の実現によるマルチステークホルダーのWell-being追及～

①卓越性の飛躍から世界的課題を解決する新技術創出

50年後、100年後のありたい未来：地球と生態系の健康（*Planetary Health*）の実現に向け、地球外活動も視野にいれた、新たな知見と新技術開発を推進

高等先鋭研究院　先鋭研究群（研究特区）を選定：（第1弾）

植物・光エネルギー開発拠点

【10年後】「光合成の根幹をなすタンパク質の機構等」「植物の機構・構造・ゲノム情報」解明により、人工光合成の社会実装、クリーンエネルギー生産システムや極限環境下でも安定・高強度を保つ新素材開発を加速化

世界トップの研究者群（知の集積）とリソースの傾注により、研究界のトップサークルを先導し、地球規模の課題解決を図り、国際研究イニシアチブを獲得

自然災害　地球環境激変　気候変動　エネルギー不足　→解決



②イノベーション創出によるWell-being社会の実現

【10年後】デジタルの力で人の持つ力を最大限活用し、医療制度と生活様式の変革を導く拠点

Community Health & Human Health 先導大学群の形成

DXを軸に産学官連携により誰一人取り残されないコミュニティを創生
（国家戦略特区：デジタル田園健康特区を活用し、中山間地域の課題解決の全国展開）

規制緩和　革新的新医療技術　暮らし改革　新価値・新産業創出 スタートアップの舞台



イノベーションを支える強い基盤づくり：研究基盤の整備と高度専門人材の育成

③イノベーション創出の知と技のメッカとなる研究基盤整備（研究力強化・産業振興拠点）

1. 先端分析計測設備・基盤設備の充実及び共用化の推進

- クライオ電顕連携中四国NWを構築
- 理研SPring-8のリモートアクセスステーション設置
- 最先端設備の整備により大規模実験の事前実験拠点
- 基盤設備の共用化促進（産業界の利用促進）
- コアファシリティポータルによる研究設備のワンストップ利用
- 事務処理DX化による業務削減



シナジー効果

2. 総合技術部・技術職員の高度化

- TCカレッジの受講によるテクニカルコンダクター(TC)認定者輩出促進（ALL-JAPANで技術人材の高度化・関係機関、企業等との頭脳循環）
- 博士人材の積極登用（大学院修学支援制度による博士号取得促進）
- プロジェクトマネジメント国際資格（PMP）取得促進

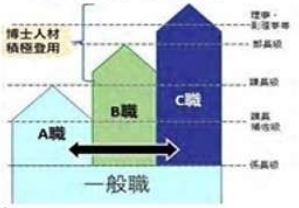


④ 研究界の国際トップサークルを先導する研究者と知識を活用し社会を変革するナレッジワーカーの育成・輩出

1.複線型人事制度（複数キャリア）
2.研究マネジメント人材認定制度



3.事務職員の機能分化と高度化
（博士号取得修学支援制度）



4.教員の機能分化と全体最適



5 .スーパーPI制度（優秀な若手研究者支援）　6 .特区卓越研究者制度　7. シニア・ミドルトップ研究者制度

地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）

岡山大学の取り組み図

岡山大学 OKAYAMA UNIVERSITY × J-PEAKS



日本学術振興会：地域中核・特色ある研究大学強化促進事業ホームページ
https://www.jsps.go.jp/j-chukaku/

岡山大学J-PEAKSホームページ
https://j-peaks.orsd.okayama-u.ac.jp/

参考資料集

国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）「先端研究基盤刷新事業（EPOCH）」
https://www.jst.go.jp/program/epoch/index.html

先端研究基盤刷新事業(EPOCH)の採択大学の決定について（文部科学省）
https://www.mext.go.jp/b_menu/boshu/detail/mext_00548.html

文部科学省・JST「先端研究基盤刷新事業（EPOCH）」に採択～人的資本による知と技の共創の場が切り拓く、我が国の研究環境・基盤の刷新の実現へ～（国立大学法人岡山大学）
https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15603.html

岡山大学総合技術部
https://techall.okayama-u.ac.jp/

岡山大学研究設備機器共用システム（CFPOU）
https://corefacility-potal.fsp.okayama-u.ac.jp/

Shared Transformation (SX) Platform
https://sxplatform.jp/

He3プロジェクト
http://www.magnet.okayama-u.ac.jp/He3project/index.html

JASIS 2026
https://www.jasis.jp/

岡山大学
OKAYAMA UNIVERSITY

最先端科学・分析システム&ソリューション展

JASIS
Japan Analytical & Scientific Instruments Show
2026

EPOCH
先端研究基盤刷新事業

岡山大学
OKAYAMA UNIVERSITY